



第7課 もっと仲を深めよう

— 共通の思い出 —

扉

導入

第7課では、共通の思い出について語りあうことを通して仲を深めていくことを目指します。友だちとの会話の中で、共通の思い出（楽しかった瞬間やびっくりした瞬間など、記憶に残る思い出）を再び話題に出すことで親近感を覚えることにつながります。いっほうで、思い出話をしたときに、相手から単調な反応のみしか得られない、または友だちとの思い出話を聞いたときに単調な反応しかしてあげられない場合、相手との距離を感じてしまうことがあります。そのような経験がないか、ある場合は具体的なエピソードを学習者に話しあわせてみましょう。

よくあるもやもや

- 本課では、話し手と聞き手の境界は曖昧です。思い出話を「語りあう」ことによって仲を深めるからです。よって、<もやもや>は、経験を話す側・聞く側双方の悩みです。一緒に経験した思い出話をするとき、互いに「そうそう！ しかも～！」と楽しい思い出話が続くと思って話しはじめるものですが、うまく盛り上がらなかったことはないか、学習者に確認し、挙手させます。

→ **POINT 1** **POINT 2** **POINT 3**

イラスト

STEP1 の<もやもや会話>の内容をイラストで表したものです。上級学習者にはこのイラストを見せながら、文字情報なしに会話のだいたいの内容や問題を把握させると良いでしょう。具体的な問題について考える作業は、次ページからのSTEP1で行うので、ここではあまり時間を取る必要はありません。



STEP1 考えよう

もやもや会話

【会話の内容と登場人物の心情】

大学の食堂で、マイクさんと静さんとさくらさんと山ちゃんは打ち上げをする店について相談していますが、なかなか決まらず、話し合いが進みません。静さんは、旅行の行き先を決めるためにみんなで話しあったときも同じようになかなか決まらなかったことを思い出し、そのことについて話します。マイクさんは、そのときのことを覚えているようですが、すぐに打ち上げの店に話題を戻してしまい、みんなで思い出話を語りあうことができていません。この会話がなぜ盛り上がらないのか、そのポイントを考えさせます。

質問

【解答例】

① みんなで旅行の行き先を相談したときの思い出。

「みんなで旅行に行ったときも、いろいろ決まらなかったよね。」というせりふからわかる。

② 一緒に思い出を話してほしかったと思う。

【指導のポイント】

- 静さんの立場から、会話を盛り上げるためにどう話せばよかったのか考えさせます。「いろいろ決まらなかった」というのがやや漠然としていることにも注意を向けさせるといいでしょう。
- マイクさんの反応に注目させ、会話をさらに盛り上げるにはどのような反応があるかを考えさせます。

スッキリ会話

<もやもや会話>と比べて、会話が楽しく続いていることを確認します。「<もやもや会話>の下線部のところは、POINT のような表現を使うと、会話がスムーズに続くようになります。そのポイントについて学習しましょう。」というような声かけを行い、次のSTEP2につなげてください。各POINTについて、ここで話しあったり、解説したりする必要はありません。



STEP2 学ぼう

POINT 1 相手が思い出しやすいように話す

【指導のポイント】

- ここで最も重要なのは、「そういえば、～も～よね／よな／なかった？」という発話が、共感を引き出すための発話であることです。例えば、「あのときびっくりした」という場合と「あのときびっくりしなかった？」という場合では、「びっくりしなかった？」は、反応が求められていることが明確になるため反応しやすくなります。特に、本課は共通の思い出について話していますので、「同じ気持ちを共有した仲間」として、共感を求めていることがわかります。
- 「そういえば」は思い出したことを示す表現です。思い出話をするきっかけの表現としてよく登場します。

練習 1

【解答例】

- 1) そういえば、前のプロジェクトも時間がかかったよね。／よな。／かからなかった？
- 2) あははは！ そういえば、新入生キャンプのときもおもしろいこと言ってたよね。／よな。／言ってなかった？
- 3) うん。そういえば、初めてのサークルの歓迎会でも、めっちゃ長かったよね。／よな。／長くなかった？

【指導のポイント】

- ここで、クラスメートがお互いに初めて会ったときのことや一緒に受講した授業での出来事などを思い出してもらおうと、次のタスクが行いやすくなります。

「よね／よな／かからなかった？」と文末に付け足された部分が重要ですので、最後まできちんと相手に聞こえるように発話することが大切です。No.26の音声でイントネーション含め、確認してください。「～なかった？」は上昇音調で言えることを確認しましょう。

タスク

【指導のポイント】

- タスク話題例： A さんが出会ったばかりの写真を見せる場面で、B さんから出会ったばかりの思い出について話しはじめます。例として、「最初は英語ばかり話してなかった？」「日本で困ったことばかり話してたよな／よね」「お互い緊張してあまり話せなかったよな／よね」「1年のときのゼミ、宿題ばかり出て大変だったから助け合ったよな／よね」などが挙げられます。B さんが思い出話を開始した



後の A さんの反応は、この時点では続けても続けなくても良いです。B さんの次の A さんの発話がある場合は、共感できているかどうかポイントです。

- 反応の具体的な仕方は POINT2 以降に登場します。ここでは学習者がどのように反応しているかに注目し、これから勉強するところでさらにスキルを獲得できるようにしましょう。

POINT 2 誰かが言ったことを引用しながらいきいきと伝える

【指導のポイント】

- タスクのところでもどのように反応したのかを振り返らせてから例文に注目させるのも良いですね。「そうそう！」などと反応したあとに何を言っていたか、それとも言えなかったのか、確認をしても良いでしょう。
- 相手との共通の思い出を話す際には、相手に具体的な場面についてそのときの気持ちなど臨場感ごと思い出してもらう必要があります。ここでは、誰かのせりふを引用しながら臨場感を伝えられるように指導します。
- また、はっきり覚えていないという学習者がいるかもしれません。しかし、共通の思い出として語るにはお互いが覚えているような「強い印象に残る場面」である必要があります。強い印象に残る場面であれば、一言一句覚えている必要はありません。「とか」という表現で大体の内容を伝えれば良いことを伝えます。
- POINT1 のタスクのところでもどのように反応したのかを振り返らせてから例文に注目させるのも良いですね。「そうそう！」などと反応したあとに何を言っていたか、それとも言えなかったのか、確認をしても良いでしょう。
- 相手に言われたことについて「え？ あのことかな？」と不安なときもあります。そのような場合の確認の仕方についてはコラムを参照してください。

練習 2

【解答例】

- 1) 食べすぎた食べすぎた！ 「おなか破れそう」とか言ってさー。
- 2) そうそう！ 「今頑張れば絶対にいいことある」とか言ってさー。
- 3) なったね！ 「テスト中に寝ないように」とか言われてさー。



【指導のポイント】

- 3) では、視点を統一するために5課で学んだことを使っている（受身を使っている）ことを確認しましょう。
- イントネーションは平板ですが、同じような強さでそのまま伸ばします。No.26 をモデルとして聞かせてください。

タスク

【指導のポイント】

- 印象に残る出来事が思いつかない、という学習者もいるかもしれません。話題1 (POINT 1 のタスクと同じ)、2 は出会いの初期によくあることを例として挙げているので、自分たちのときはどうであったかを思い出させてから始めるのも良いでしょう。
- 先生などが登場した場合は、せりふの引用時に視点を考えながら（受身を使いながら）話せているかもチェックしましょう。

POINT 3 共感が伝わるように、そのときの気持ち・具体的な出来事を表現しながら話す

【指導のポイント】

- 本課全体は「語りあう」というところがポイントです。POINT 3では、POINT 2に続き、同意するだけでなく、同意のあとにどのように会話を続けていけば会話が盛り上がるのか意識させましょう。
- 相手との共通の思い出を話す際には、相手に具体的な出来事についてそのときの気持ちなど臨場感ごと思い出してもらう必要があります。ここでは、具体的な出来事や気持ちについて話しながら盛り上げる手法を学びます。

練習 3

【解答例】

- 1) B: そういえば、前のプロジェクトも時間がかかったよね。
A: かかったかかった！ 結局ギリギリまで終わらなくて、みんなで徹夜したよね／な。
- 2) B: そういえば、新入生キャンプのときもおもしろいこと言ってたなかった？
A: 言ってた言ってた！ それでマイクが一番前の席でめっちゃ笑ってたよね／な。
- 3) B: うん。そういえば、初めてのサークルの歓迎会でも、めっちゃ長かったよね。
A: そうそう！ あまりに長いから、みんな1回グラス置こうとしたよね／な。



【指導のポイント】

- 反応の仕方も「そうそう！」だけではなくいろいろな方法があります。多様な反応の仕方にチャレンジさせても良いでしょう。
- 最初の共感を示す発話は、第2課 POINT1 (2) と同様、共感の気持ちが伝わる強さで発話を開始する必要があります。No.26 の音声で「そうそう！」「そうそう！」「言ってた言ってた！」のトーンを確認してください。また、この発話を一人がする必要はなく、そのように思ったタイミングで複数の人が同時に共感を示すことによって、盛り上がっていることにも注目してください。雑談に慣れない頃は、発話のタイミングを待ってしまいがちですが、このような共感を示す言葉なら会話の流れを大きく邪魔することなく同じメンバーであることを示すことができることを伝えると良いでしょう。
- 思い出を話しはじめたあと、共感しながらお互いに続ける発話は、前の発話で語られた出来事をいきいきと伝えるもの必要があります。抽象的な描写になりすぎないように、せりふの引用や場面の様子など具体的な状況や気持ちを話しましょう。

例) × 抽象的な答え方

B: そういえば、新入生キャンプのときもおもしろいこと言ってなかった?

A: 言ってた言ってた! たくさん笑ったね。

→ 具体的なせりふが思い浮かばなかったとしても、そのときにどれぐらいの人が、どう笑ったのか (みんなが一斉に笑ったから先生の声が聞こえなかったなど) 具体的に話すとう良いでしょう。

タスク

【指導のポイント】

- お互いの思い出話については、POINT 1 や POINT 2 で話した話題でもかまいません。多様な反応のあとに続けて具体的な出来事や気持ちを伝えられているか確認しましょう。

STEP3 お互いについて知ろう

話そう

第7課では、思い出話として取り上げられることが多そうな話題を集めています。思い出話は、単なる出来事ではなく気持ちが共有できる瞬間など、お互いに話す価値のある場面である必要があります。なかなか話すことが思いつかないペアには、教師がお互いに笑いあった経験や、何か失敗したり驚いたりした瞬間にお互い居合わせた経験がないかなど、質問することによってサポートをすると良いでしょう。



【場面例】

場面を意識した会話の始め方、話題転換を自然に行う表現などに注意させます。

[場面を意識した始め方の例]

A：おはよー。今日は早いねー

B：うん、なんかすごい早く目が覚めたからいつもより2時間早い電車で来ちゃった。

A：えー！ 早すぎない？ そういえば、入学したばかりのときもさー…

【三者会話の場合】

学習者 A、B、C がいた場合、3名共通の思い出話を語っても良いです。その場合は、A の思い出話について「そういえば～なかった？」に B、C がそれぞれ答えます。同じような場面でも語り方（せりふの引用や感情の描写）が少しずつ異なると、お互いに話を盛り上げることができます。3名共通の思い出話がない場合は、A と B に先に思い出話の練習をしてもらい、その話を C は「そうなんだー！（笑えるね!）」など聞き役に回っても良いでしょう。3名がそれぞれ思い出話の練習ができるよう、ペアを変えながら練習します。

<会話録音の流れ>

1 課を参照してください。

発表しよう

【フィードバック上の注意点】

■全課共通

- カジュアルな会話にふさわしい表現を使えているか。
- 場面を意識した始め方ができているか。

■7 課

- 「そういえば、～よな／よね／なかった？」と、相手が思い出しやすい形式で思い出話を始められているか。
- 「そういえば、～よな／よね／なかった？」に対して、反応できているか。（まずは「そうそう!」などで反応できているか）



- 「そういえば、～よな／よね／なかった？」に対して反応したあと、せりふの引用や具体的な場面・気持ちの描写により話を盛り上げられているか。(引用の場面では、必要に応じて5課の技術を使っているか)
- 一方だけが話すのではなく、互いに話を盛り上げられているか。
- 思い出話についてすぐに思い出せない場合、コラムの表現を用いて確認ができていているか。

【学習者の会話例と、フィードバック例】

学習者の会話例

1A：あ、Bちゃん、チョコ食べない？

2B：あー、食べる食べる。ありがとう。

3A：全然。

4B：あー、疲れたわー。

5A：へえー、え、明日はまだ授業あるの？

6B：あー、あるよ、まあ授業というか、テストがあるよ。

7A：あー、え、何のテスト？

8B：C先生の、授業のテスト。

9A：え、ほんと？ふふふふ。

10B：うん、ほんとだよー。

11A：え、すごい。

12　　そういえば、前学期、いっしょにC先生の方言の授業、取ったよね？

13B：そうそうそう。

14A：あのその授業でみんながあの方言で会話を作って、他の学生の前で発表してたよね。

15B：あー、そうそう、そういえば、あのときめっちゃ恥ずかしかったよね。

16A：恥ずかしかったー！私もそう思う！

17B：うん。でもあのC先生は「みんなも同じだから大丈夫ですよ」とか言われてさ。

18A：ふふふ。でも先生はその恥ずかしさ、わかるわけがないでしょう。

19B：そうそう、先生は〇〇弁のプロだからね。

20A：完全な〇〇人だからね。

21B：そうそう。まあでも今思い出したらあのときの会話のみんなのストーリーがめっちゃ

22　　おもしろかったよね。

23A：あー、楽しかったよね。

24B：うん。



フィードバック例（教師のコメント例）

★カジュアルな会話にふさわしい表現か

- 全体的に、カジュアルな会話にふさわしい表現を使うことができます。
- 驚いたとき、意外なことを聞いたときや、話題の切り替えに使う「え」、理解、共感を示す「あー」などの使い方がとても上手です。
- 18行目「わかるわけがないでしょう」は、丁寧な表現です。ここでは、同じ授業に出ていた相手からの共感を得るために、「よね」を使って「わかるわけないよね」にしたほうがいいでしょう。

★場面を意識した始め方ができているか

- 「授業に行くと、友だちが先に来ていた」状況では、まず、友だちに話しかけるところから始めるほうが自然です。

★7課の学習項目について

Aさんへ

- 相手が思い出しやすいように話す「そういえば～よね」という表現がとても上手に使えています。
- 16行目の共感の表現「恥ずかしかったー！」は、強調した言い方で、とてもよく気持ちが伝わります。

Bさんへ

- C先生が言ったことを引用しながら、いきいきと伝えることができます。確認ですが、17行目「～とか言われてさ」の「言われて」は尊敬を表していますか？もしも、受身の意味の場合は「C先生に～とか言われてさ」となります。
- 共感を示すときに、「そうそう」をよく使っていますが、相手が言った言葉を繰り返す方法なども使ってみましょう。（例：「C先生の授業とったよね」「とったとった」など）

AさんとBさんへ

- 二人とも、7課の表現はよく使っていますが、相手の共感を引き出す「～よね」をもっと使うと、より話が盛り上がると思います。
（例：「あのとき、めっちゃ恥ずかしかったよね」「恥ずかしかったー！！ 恥ずかしすぎて、みんなの前に立ったら、がくがく足が震えたよね。」など）



コラム⑦ この前の店ってあの店？ あれってどれ？

【指導のポイント】

- 思い出話をしているとき、相手が言及した場所や人が、すぐに思い出せない場合もあるでしょう。また、一緒に会話を進めていくためには、話がスタートしたあと、早めに確認することも大切です。7課のコラムでは、自分が想起したものが正しいかどうかを確認する方法を取り上げています。
- ①は「あの○○？」のように尋ねる方法です。指示詞が「あの」となることに注意させてください。○○の部分には、店名や店の種類など、具体的なものを入れるといいでしょう。コラム4 (p.58) も適宜参考にしてください。
- ②は場所（新宿の地下）、出来事（鈴木くんも一緒に行った）など、より具体的な情報を使って確認する方法です。
- ③はまったく思い出せないときに、相手から説明を引き出す方法です。「疑問詞＋名詞＋だったっけ？」という表現を用います。「っけ？」については4課を参照ください。